

令和4年1月

崇徳高校バレーボール部 OB 会
会 員 の み な さ ま へ

崇徳高校バレーボール部 OB 会
会 長 山 下 仁

ご挨拶とご報告

新年あけましておめでとうございます。

OBのみなさまにおかれましては、コロナ禍の中、昨年夏以降ワクチン注射がいきなり、その効果が表れ安堵された矢先、秋口に入りオミクロン株が欧米を中心に猛威を振るい始め、師走から新年早々日本にもその傾向が見られますが、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素から、みなさまよりの現役選手に対し、物心共に多大なるご支援ご理解を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

既にご承知のことと思いますが春高バレーは、2回戦から登場し佐賀学園と対戦し（20-25・25-18・30-28）のフルセットで下し、3回戦は郡山北工に（25-18・25-21）で完勝、ベスト4をかけた順々決勝戦は、雄物川に（16-25・25-19・19-25）のフルセットで敗れ、ベスト8で終了いたしました。

3試合ともライブ放送があり、パソコン・スマートフォン等を通じて、ご声援を多くのみなさまから頂いたことと思います。

特に、佐賀学園戦の3セット目は、序盤から手に汗握る好ゲームを展開し、2年生の絶対的エースが足に痙攣をおこし退場し、再度コートに戻る間、3年生が奮起し崇徳魂を遺憾なく発揮し、持ちこたえてくれたことに深く感銘したと多くのバレーファンからのお声を頂戴しており、2年生以下の現役が、これらの経験を良き財産として、今後大いに生かしてくれることを期待しております。

つきましては、昨年も申し上げましたが本会は、昭和37年（1962年）に崇徳高校バレーボール部出身者の唯一の団体として、現役に対し真の後援者として、母校崇徳学園の名譽を益々向上させ、OB会員間の連携を密にして親睦を図ると共に、バレーボールの発展に寄与する事を目的として結成されました。

今年で OB 会結成 61 年を迎えます。会員数も年々増やし、崇徳バレーで学んだ「師弟、先輩・後輩の恩愛の絆」により、現在 600 有余名が全国各地で活躍されており、これらは現役の励みとなっていると言っても過言でないと思います。

さて、本会総会は、OB 会結成以来元旦に行っておりました。しかし、平成 23 年（2011 年）から春高バレーの開催月が、3 月中旬より 1 月初旬に変更となり、現役が遠征合宿を兼ね元旦に出発が想定されるため、3 年生最後の全国大会の壮途の会を兼ね、12 月 31 日に変更し今回で 12 回目を迎えました。

2022 年度の春高バレーは、新型コロナ感染防止対策上、前回同様無観客試合、感染者を出せば棄権扱い、試合登録メンバー以外の試合会場入場禁止の通達が出され、広島県予選前から、現役の日常生活、練習時の緊張度は相当なものがありました。

これら受け、OB 総会出席のために、都会地から帰省する OB 各位が一堂に会し交流することで OB 間同士の感染と、恒例の現役との親善試合等の行事等で不測の事態が懸念されるリスクを避けるため、理事会総意の判断により、前回同様、OB 会総会の中止を決定し、総会議案を OB 会ホームページによる書面表決といたしました。

なお、総会の中止を受け、本会を代表し、私と高岡理事長が、12 月 25 日母校体育館に出向き、激励の品を現役選手に手渡しました事をご報告いたします。

当日は、本会員でもある絹谷徹校長（昭和 52 年度卒）が体育館にお見えになり、母校の現状を聞くに「少子化により県下の私学が生徒募集にあえいでいる中、女子生徒の募集を始め今春で 3 年目を迎えるが、国公立大志願者を中心に人気が高く、令和 3 年度は女子 3 百有余名と男子と合わせ 7 百有余名が入学したとの事で学校経営は問題なし」との事でした。

私からは、立場もあろうが、校長にバレーボール部の活動に対し、特段の理解と支援を要望いたしました。

最後になりましたが、寒さも一段と厳しくなっております。新型コロナ感染症の猛威も懸念されておりますが中、皆様ますますのご活躍とご自愛を祈念するとともに、新年のご挨拶と近況等々を申し上げます。